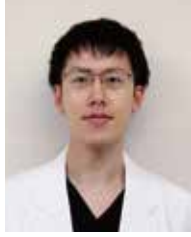




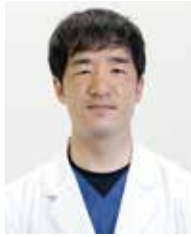
兵庫医科大学病院
竹内 由起先生
YUKI TAKEUCHI

皆様はじめまして。竹内由起と申します。県立尼崎総合医療センターの脳神経内科に6年間勤務しておりましたが、急性期治療では回復できなかった患者さんが、リハビリテーションを行うことで大いにADLが改善している姿を見て、その大切さを痛感しました。嚥下関連の業務に携わることもあり、もっとリハビリテーションの知識を深めたいと、この度入局させていただきました。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



兵庫医科大学病院
ささやま医療センター
鈴木 智大先生
CHIHIRO SUZUKI

2022年4月に入局いたしました鈴木智大と申します。兵庫県養成医師制度で県内の地方病院の転勤を繰り返しておりました。地域で高齢患者さんの診療をおこなっていると、疾患管理のみでは解決できない生活の課題を抱えた方を多くおられました。このような患者さんの生活に花を添えられるような関わりができればと思います、以前から興味があったリハビリテーション科への入局を志望いたしました。何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



洛西シミズ病院
末廣 貴史先生
TAKAFUMI SUEHIRO

九州大学卒業後、2年間の初期研修とその後1年間九大病院脳神経外科での勤務を経て、今年度より兵庫医科大学リハビリテーション科に入局させていただきました末廣貴史と申します。学生時代より神経機能に興味を抱いており、実臨床で様々な脳神経系の疾患を有する患者さんと接する中でリハビリテーションに興味を抱いた次第です。これまでの経験や知識を生かしながら患者さんの機能回復の一助となれるように努めて参りますので、ご指導ご鞭撻の程宜しく願い申し上げます。



兵庫医科大学病院
田中 雄士先生
YUSHI TANAKA

2022年4月より兵庫医科大学リハビリテーション医学講座に入局しました、田中雄士と申します。生まれ育ちが熊本で、九州大学卒業、初期研修2年を福岡の市中病院で修了しました。たった2年の臨床経験ではございますが、急性期治療だけでなく、その後の慢性期の医療、環境調整を学びたく、リハビリテーション科医を専攻しました。患者様には、今後のリハビリ次第だと声をかけるのではなく、患者様が未来に希望を持てるよう予後予測と治療、資源調整を提供できる医師になれるよう努めます。先生方にご指導いただいたことを実践し日々精進していきます。ご迷惑おかけしますが、どうぞよろしくお願い致します。



兵庫医科大学病院
長田 尚樹先生
NAOKI CHODA

2022年4月から兵庫医科大学リハビリテーション科に入局させていただきました、長田尚樹と申します。私は薬学部を卒業しており、製薬企業で研究職として働いた後に、医学部に編入しました。医学部在学中は予防医学の研究室に通い、食生活と精神的健康度の関連に関する研究を行ってまいりました。趣味は太極拳と中国整体です。食事や運動を含めた生活面、心理社会面に配慮し、総合的に患者さんを診ることが出来る医師になりたいと考えております。至らぬ所が多々あるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。



兵庫医科大学病院
豊田 奈央先生
NAO TOYODA

2022年4月より、兵庫医科大学リハビリテーション医学講座に入局させていただきました、豊田奈央と申します。徳島大学を卒業し、初期研修は近畿中央病院でさせていただきました。初期研修をする中で、患者さんがよりよい状態で生活できるように、様々な角度から関わられるようになりたいと考えているようになり、リハビリテーション科を志望しました。至らない点も多々あるかと思いますが、日々精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



みどりヶ丘病院
宮本 康平先生
KOHEI MIYAMOTO

2022年4月から兵庫医科大学リハビリテーション科に入局させていただきました、宮本康平と申します。私は以前理学療法士として回復期病院で2年間、老健で2年間従事していました。医学部に再入学してからは総合内科や整形外科に進むことも考えていましたが、前職の経験を活かすことができ、患者さんの人生を支える医療がしたいという思いからリハビリ科を志望しました。前職の経験では補いきれないことが多く、日々戸惑いを感じながら業務をしていますが、1日でも早く成長したいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

CRASEED NEWS



No.50

発行：NPO法人リハビリテーション医療推進機構CRASEED／年3回発行／第50号(2022年6月1日発行)
〒560-0054 大阪府豊中市桜の町3-11-1 関西リハビリテーション病院内 TEL:06-6857-9640 http://craseed.org

第13回 日本ニューロリハビリテーション学会学術集会 開催報告

「本気で!」ニューロリハビリテーションの臨床応用を促す

2022年2月12日に神戸で開催された第13回日本ニューロリハビリテーション学会(Japanese Society for Neural Repair and Neurorehabilitation, JSNRNR)学術集会で大会長を務めさせていただきました。医局のWebサイトが'Neuroreha.jp'、私のメールアドレスがneuro-reha.orgであることからお分かりの通り、ニューロリハビリテーションは私のライフワークと思っています。2002年以來CI療法を導入・実践し、ロボットリハビリテーション、VRリハビリテーションを先導し、さらには医学書院より『ニューロリハビリテーション』を上梓いたしました。再生医療が実用化されようとしています、ニューロンの数が元に戻っても、それをネットワークとしてつなぐ方法こそリハビリテーションであり、その基礎理論としてのシナプス可塑性や運動学習理論が重要です。このことは繰り返し主張してきましたので、今や再生医療の基礎研究分野においても適切なリハビリテーションとの併用の盛んに議論されるようになりました。

さて、そのような思いを乗せて主催した学術集会ですので、テーマは『本気でトランスレーション!基礎科学・工学から臨床へ』とさせていただきます。私は、Pennsylvania州立大学のMark L. Latash教授およびATR人間情報通信研究所の川人光男博士のもとに留学し、バイオメカニクスとニューロサイエンス、さらに計算論的神経科学を学んできました。その頃から、長足の進歩を遂げている基礎科学を臨床応用して、患者さんに還元しなければならぬと強く感じておりました。しかし、いまだその思いは十分に果たされていません。これが今回の『本気でトランスレーション』というテーマの背景です。基礎研究者、エンジニア、臨床研究者、臨床家、専門職すべてが叡智を結集して、病に



会長講演の様子

苦しむ患者さんの治療への応用を目指すとき、希望の光が見えてくると強く信じております。「本気で!」という言葉に熱意を感じ取っていただければ幸いです。



学会は盛況のうちに幕を閉じた

当日はコロナ禍第6波のまさにピークであったにも関わらず、オンラインで81名、オンラインでは最終的に293名の参加者に恵まれました。特別講演として、ソニーコンピュータサイエンス研究所の古屋晋一先生に「音楽家の演奏技能の機械学習」を、横浜市立大学大学院の高橋琢哉先生に「シナプス生理学のトランスレーショナルアプローチ」を、東京大学大学院の今水寛先生に「運動主体感の神経機構」を、東京工業大学の小池康晴に「身体変容に対する生体構造の再構成」をそれぞれご講演いただきました。シンポジウムでは「再生医療最前線—リハビリテーション医療への応用—」、「ニューロリハビリテーションの最新トピック」などが議論され、会長講演では「ニューロリハビリテーションの過去と未来」など盛りだくさんの企画でした。また一般演題も44題が発表されました。海外招待講演はオンデマンド形式で行われ、米国Massachusetts Institute of TechnologyのHermano Igo Krebs先生、Istanbul Medipol UniversityのGulseren Akyuz先生、米国University of AlabamaのGitendra Uswatte先生、University of Southern CaliforniaのNicolas Schweighofer先生、University of IllinoisのAlexander S. Aruin先生など錚々たる演者に動画で講演していただきました。

今回の学術集会を通過点として、来るべく再生医療の時代に、数多くのニューロリハビリテーションの方法論が実用化され、最大の効果を発揮できるよう、引き続き研究と実践を継続して参りたいと思っております。

兵庫医科大学リハビリテーション医学講座 道免和久 先生



体験型のワークショップも開催された

ロボットリハビリテーションから 演奏技術の機械学習まで、 多くの学びの機会に

2022年2月12日(土)に第13回日本ニューロリハビリテーション学会が神戸国際会議場における現地会場とオンデマンド配信のハイブリッドで開催されました。会長講演はCI療法、ロボットリハビリテーション、近年注目されているVRリハビリテーションが取り上げられており、ニューロリハビリテーション分野を研究、臨床応用を網羅し、本学会を総括するような内容でした。特にロボットリハビリテーションに関してはより一層、積極的に臨床に取り入れていきたいと感じました。学術的な研究を臨床にトランスレーションするために産官学連携が重要で、本学会は医工連携における相互理解を深めるためにも重要な役割を担っているとおっしゃっていました。私自身が音楽に関心があるため、特別講演では音楽家の音楽訓練における可塑性に着目した話が最も興味深い内容でした。音楽家の動作を評価するために機械学習が有用であり局所性ジストニア等の疾患の理解が深まるという事が期待されています。展示出展には多くの企業が参加し、様々な医療機器が紹介されました。アカデミックレクチャー、シンポジウム、ランチョンセミナー、一般口演、オンデマンドレクチャーもそれぞれ学びの多い機会になりました。前日の2月11日(金)に開催されたワークショップでReoGo-Jを実際に動かす体験もできました。貴重な機会をいただき感謝申し上げます。

兵庫医科大学ささやま医療センター 金谷 実華 先生



企業展示会場の様子

新型コロナ禍での学会参加、 今後も積極的に知識を吸収したい

2022年2月12日(土)に神戸国際会議場において第13回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会が開催されました。私は今、京都にある洛西シメズ病院に勤務していますが、前日に担当患者さんが発熱されたため、新型コロナ感染だった場合は濃厚接触者となってしまうため参加できない可能性がありました。幸いその方は抗原検査・PCR検査は陰性だったため、なんとか参加できました。病院のスタッフや患者さんがコロナ陽性となった場合、その対応が大変で難儀な時代になったものです。

個人的に気になったのは、藤田医科大学の大高先生が講演されていた「脊髄損傷の最新傾向と先端リハビリテーション」でした。昨年12月に開催された先端リハビリテーション研究会において自分が発表した内容と似ており、大変わかりやすかったです。昔と違って、高齢者の増加に伴い転倒を原因とする脊髄損傷の割合が増えています。脊髄損傷に対する治療はいまだ確立しておらず、治療成績の向上は麻痺の増悪を予防する外科的治療と超急性期からのリハビリテーションに負うところが大きく、脊髄損傷自体の治療が進んでいるとは言えない状況です。その一方でiPS細胞などを用いた再生医療は基礎研究の段階から臨床研究へ移行しつつあります。今後も発展が期待されている分野であり、今後も積極的に学会に参加して知識を吸収したいと思います。

洛西シメズ病院 斎藤 卓仁 先生

現地ならではの体験型セミナーで 患者さんの気持ちを体感、 分野発展の情熱も刺激に

2022年2月12日神戸国際会議場で開催された日本ニューロリハビリテーション学会学術集会に参加させていただきました。オンラインと現地のハイブリッドの開催で現地での参加は少なく少し寂しい感じもしましたが、活発な議論がされており、臨場感の溢れた刺激的な学会でした。

私は2月11日に開催されたワークショップ ReoGo-Jを実際に使って学ぶ上肢リハビリテーション治療実践セミナーから参加しました。体験型ということとても楽しかったですし、実際に体験しなければわからない患者さんの気持ちを少し身近に感じることができました。12日のプログラムも様々な分野があり、興味をそそられるものばかりでした。ニューロリハビリテーションには医療、福祉だけでなく科学や工学などたくさんの方が関わっていることを改めて感じましたし、ニューロリハビリテーションをより発展させていこうという情熱が伝わってきて刺激を受けました。また道免先生を始め、医局の先生方が発表や座長をされている姿を目の当たりにし、私自身もこれからリハビリ医として日々勉強しなければならないと強く感じました。今回参加者としてのみならず、主催者側としても参加することができてとても貴重な体験となりました。このような機会をいただけたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

みどりヶ丘病院 松島 聡子 先生

漢方の副作用について

以前こちらで「一度使ってみてほしい漢方」について紹介させて頂きました(※本誌43号掲載)。他にも色々使えるものはあるのですが、今回は、普段漢方をあまり使わない人にとって一番ネックになる副作用についてお話ししたいと思います。漢方は、色々な生薬から構成されています。少ないものでは2種類(芍薬甘草湯)、多いものでは18種類(防風通聖散)です。一般的に、構成生薬が少ないほど効果発現までの時間が短く、多いほど長い傾向にあります。生薬の種類は数多くありますが、その中で気を付ける生薬はある程度限られてきます。以下の7つの生薬について気を付けていただければ怖さは随分と減ると思います。

1 甘草

一番有名ですね。甘草と言えば偽アルドステロン症です。原因薬剤の中止のみで改善することが多いです。利尿剤は効果がありますがK製剤はあまり効果がありません。現在では発症関連の4要素が分かっており、「甘草服用量(2.5g以上)、服薬期間(30日以上)、体格(痩せ)、年齢(60歳以上)」です。服用日数よりも服用量の要素の方が影響は大きく、一番よく使われかつ甘草が多い芍薬甘草湯は甘草を6gも含んでいます。そのため、full doseで使わずに頓服が眠前1方で使う方が良いです。腰痛などではfull doseで4日分とかの短期処方がお勧めです。

2 麻黄

麻黄の主成分はエフェドリンです。そのため、心疾患がある人、高齢者には注意が必要です。甲状腺製剤やカテコラミン製剤を服用している方も注意が必要です。麻黄が含まれる方剤でよく使われるものとしては、葛根湯があります。高齢者に葛根湯が長期投与されていることなどがありますので注意してください。

3 黄芩

肝機能障害をきたすことが多く、また、薬剤性肺炎の原因生薬としても考えられていますので、処方後1ヶ月以内に血液検査で肝機能をチェックすることをお勧めします。また、服用後1ヶ月位して咳が出現した場合は胸部レントゲンを撮り、スリガラス状陰影が認められれば速やかに中止してください。

4 地黄

地黄は甘いのですが、その甘味により胃もたれをすることがあります。八味地黄丸や人参養榮湯などに含まれます。そのため、胃が弱い人には食後投与にすることがお勧めです。

5 大黄

主成分は下剤でお馴染みのセンノシドです。そのため、下痢になることがありますので注意してください。

6 桂枝

シナモンによるアレルギーで、桂枝を含む方剤を服用した後に皮疹が出る人がいるので頭に入れておいてください。桂枝を含む方剤はけっこうあります。

7 山梔子

長期服用で腸管膜静脈硬化症の発症が報告されています。これに関しては、累計服用量が5000g以上で発症率が上昇することが分かっていますので、長期服用している方は注意してください。有名なものでは、女性のイライラに処方されることが多い加味逍遙散や防風通聖散などがあります。

各方剤を調べれば構成生薬は載っていますので、上記に気を付けて使ってみてください。

潮田病院 奥野 太嗣 先生

CRASEED

オンラインセミナー 情報



■問い合わせ/申し込み
NPO法人CRASEED事務局 <http://craseed.org/>

脳卒中予後予測セミナー

【日 時】2022年11月12日(土)10時~16時

【受講料】8,000円

【講師】

道免 和久 先生(兵庫医科大学リハビリテーション医学講座 主任教授)
小山 哲男 先生(兵庫医科大学リハビリテーション医学講座 特別招聘教授)
内山 侑紀 先生(兵庫医科大学リハビリテーション医学講座 准教授)
梅田 幸嗣 先生(兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部 理学療法士)

実践CI療法講習会

【日 時】2022年11月13日(日)10時~16時

【受講料】8,000円

【講師】

竹林 崇 先生
(大阪公立大学 医学部 リハビリテーション学科 教授)
天野 暁 先生
(北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科 准教授)

道免和久教授が伝授する 脳卒中リハの達人になるために

【日 時】2022年11月19日(土)10時~16時

【受講料】8,000円

【講師】

道免 和久 先生(兵庫医科大学リハビリテーション医学講座 主任教授)